

令和元年度 第5回政策推進会議報告

日 時 6月24日 13時30分～14時44分

場 所 4-1会議室

出席者 19人

1 「(仮称) 人権基本条例の制定及び尼崎市人権教育・啓発推進基本計画の計画期間の延長」に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(森山副市長) 施策の概要のタイトルには「計画期間の延長」と記載されているが、プロセス計画書には条例制定のことしか書かれていない。
→計画期間の延長については、1年延長の決裁を仰いでいるところであり、内部的に決めてしまう内容である。
- ・(市長) 計画を延伸している事例は他にもあるが、パブコメのタイトルには入れていないと思う。
→タイトルから削除する。

2 情報システムのクラウド化等について

総務局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) クラウド化については既に決定しており、どのような方式で行うかという検討をしていたところだが、先行する神戸市より更に民間の力を活用する方式を採用することとなった。
→神戸市は今ハウジング方式でやっている。
- ・(市長) 神戸市が採用しているハウジングは戸建て、私たちが採用しようとしている IaaS はマンションのイメージ。もっと部屋がいるとか、そんなにいらないという場合は必要な分だけを借りることができる。隣の入居者がわからないというリスクはあるが、尼崎市の規模だとちょうどワンフロア貸し切れるかもしれないというような調整もしているところである。
→IaaS ではホストコンピュータが海外に置かれることがあり、システム稼働などにも影響があるかもしれないが、SLA を作成することで解消できると見込んでいる。
- ・(市長) いずれにせよ、もし市政情報センターが浸水してしまっても影響を受けないところにデータが保管されるということになる。
→それが一番のメリットになる。また、ハッカーに狙われても要塞のようになっているので侵入される恐れがない。
- ・市政情報センターは残すのか。
→庁内には独自システムもあるので、そのシステムとデータセンターのシステムを接続する必要がある。市政情報センターにはそういうネットワーク機能だけを残すという考え方があるが、人ではなくメンテナンスをどこまで残すかという話になると思う。
- ・資料2 ページに記載されている①～④で、尼崎市は今回②を採用するということだが、いず

れ③や④も検討していくのか。

- ③はPaaSという方式になるが、標準化されたパッケージ的なシステムを使うことになり、カスタマイズができない。そうすると業務に支障が出てくるので、最低限のカスタマイズは必要と考えている。例えば、延滞金を取る業務、取らない業務というのもカスタマイズになる。
- ・(市長) 業務が相当なレベルで統一化されないとその段階にはいけない。総務省はそれを推奨しているが、現実的にはなかなかそうはいかない。
- 総務省は、④のソフトからハードまで全てを民間が管理する方式を最も推奨している。しかし、そうすると行政には何も残らないので、ノウハウが消失する可能性があるし、上手くいくかはわからない。
- ・(森山副市長) 今はカスタマイズが必要という話になっているが、有識者とのヒアリングの中で、実はソフトウェア開発でコストがかかっているのはほとんど帳票作成の部分なので、カスタマイズは避けたほうがよいという意見をいただいた。市独自の様式を作ることでかなり金額が上がってしまっているの、そこを他都市と統一できると、システムとしてはオープン化の方向で安くなっていくのではないかという提案も受けている。先ほど全てを民間が管理する方式の話もあったが、行政内部の事務支援を行うシステムは残し、そこでシステムを組むことで職員のノウハウを維持していくようなことも考えられる。ノウハウも残しながら効率的にやっていくということこれから考えないといけない。
- 総務省が推奨する自治体クラウドもそういうところを視野に入れており、最終的には目指していかないといけないと思っている。
- ・(市長) どういう帳票から他自治体との統一をしていくのが現実的かという話もしているが、やはり意外と壁がある。今いろいろとRPAを試行しているように、狙いを定めて検討していたほうがいいのかと思う。先日、西宮市と政策懇談会を行ったが、クラウド化については西宮市長も興味を持っていて、一緒に勉強していきたいと言ってきており、自治体の規模も同レベルなのでいろいろやれたらいいなと思っている。
 - ・(市長) 情報化に関連する採用や人材育成の話については、はたらきガイド等を全体で議論する場で行おう。プログラムを組んだり外注したりする能力を持つ職員について、意識的に採用枠があってもいいかもしれないというような議論も始まっている。

3 尼崎市スポーツ推進計画の策定に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・スポーツ施設の老朽化への対応についてはこの推進計画に盛り込むのか。
- 環境整備まではなかなか難しいかもしれないが、効率的な施設の維持管理についてはやっていかないといけないと思っている。去年アンケート調査を行ったが、スポーツ環境の充実を求める市民の声が非常に強い。
- ・(森山副市長) 今後、ファミネの取組の中で地区体育館が複合化されていく。今までの固定観念的に、体育館やグラウンドを整備するというだけではなく、いきいき百歳体操のような社会学習や、公園へのアスレチック遊具の設置による体力づくりなど、他の局で行う事業がスポーツの領域にどう関わっていくかが大事になってくる。老朽化してきたスポーツ施設を

何とかしてほしいというような要望が強くなってきたときに、より身近なスポーツできる場所や活動も示していかないといけない。

- ・(市長) スポーツ環境の整備については、現時点で制約があるなら最初から示しておく方が誠実だと思う。スポーツ施設の老朽化が進んでいることが課題であることは事実なので、「策定にあたっての考え方」辺りに少し追加したほうがいい。「施設については、限られた財源や規模の中で、広域化や複合化などの工夫をしながら効率的な維持管理や整備を考えていく」というような方向性を出してはどうか。

→そこで書くとはっきりすると思う。

- ・(森山副市長) 「限られた財源の中で、スポーツができる環境を整えていく」という表現がいいのではないかと。
- ・(市長) 整えていく必要があるから、「複合化や他都市との連携等いろんな視点で工夫をしていく」という方向性を打ち出していったほうがいいのではないかと。
- ・(市長) ちなみに、スポーツ振興事業団の現場で事業を担っているメンバーは計画策定に参加するのか。

→これまではスポーツ審議会が中心となって計画を作っており、その審議会に事業団の課長が委嘱されている。

- ・(市長) どちらかというと計画の原案を作る側に参加するべきなのではないかという気がする。今回の計画に限らず、外郭団体にいろいろやってもらっているのに、その外郭団体を全く関与させずに計画を作っているということが多々あるので、改善した方がいいと思う。審議会に課長が入るとは言っても、他の学識経験者と立場が違うのではないかと。
- ・(森山副市長) 市と一体になってスポーツ行政を担う立場ということを見ると、計画策定の中で実施部隊としての関与をしておいたほうがより良いと思う。特に、これからの介護予防に向けた活動や企業の健康活動などについては、スポーツ振興事業団が力を入れて事業を行っているので、そういう観点でも入っていくのが大事だと思う。
- ・(市長) それでは、「施策の策定にあたっての考え方」のところは施設の考え方については言及してもらおうということでお願いしたい。ただ、制約があるということは示したうえで、意見は活発にもらったほうがいい。声の大きい団体や政治力のある団体の関連施設ばかりが整備されるのはおかしいので、考え方に沿ってしっかり計画的に整備されるべきではないかと以前から思っている。いろいろな方策を検討していきたい。

- ・スポーツの実施率がわずか5年で20%も伸びているが、何か要因はあるのか。

→特に要因の分析はできていないが、20代の実施率が非常に伸びている。夜遅い時間や24時間利用できるスポーツクラブ等も増えてきているので、その辺の影響があるのかもしれない。

- ・(市長) 要因を分析したけどわからないのか、それともこれから分析するのか。

→これから分析したい。

- ・(市長) 課題のところには20代から50代の実施率が低くなっていると記載されているがどういうことか。

→全体的に実施率は伸びており、特に20代はもともと25%ほどしかなかったものが45%ほどに増加しているが、世代間で比較すると20代から50代は相対的に低いということである。

4 その他

- 総合政策局長から、10万人わがまちクリーン運動の職員参加実績について説明。
- 健康福祉局長から、障害者差別解消に係る取組の推進に係る庁内照会について説明。
- 経済環境局長から、リサーチ・インキュベーションセンターの利用について説明。

以 上